

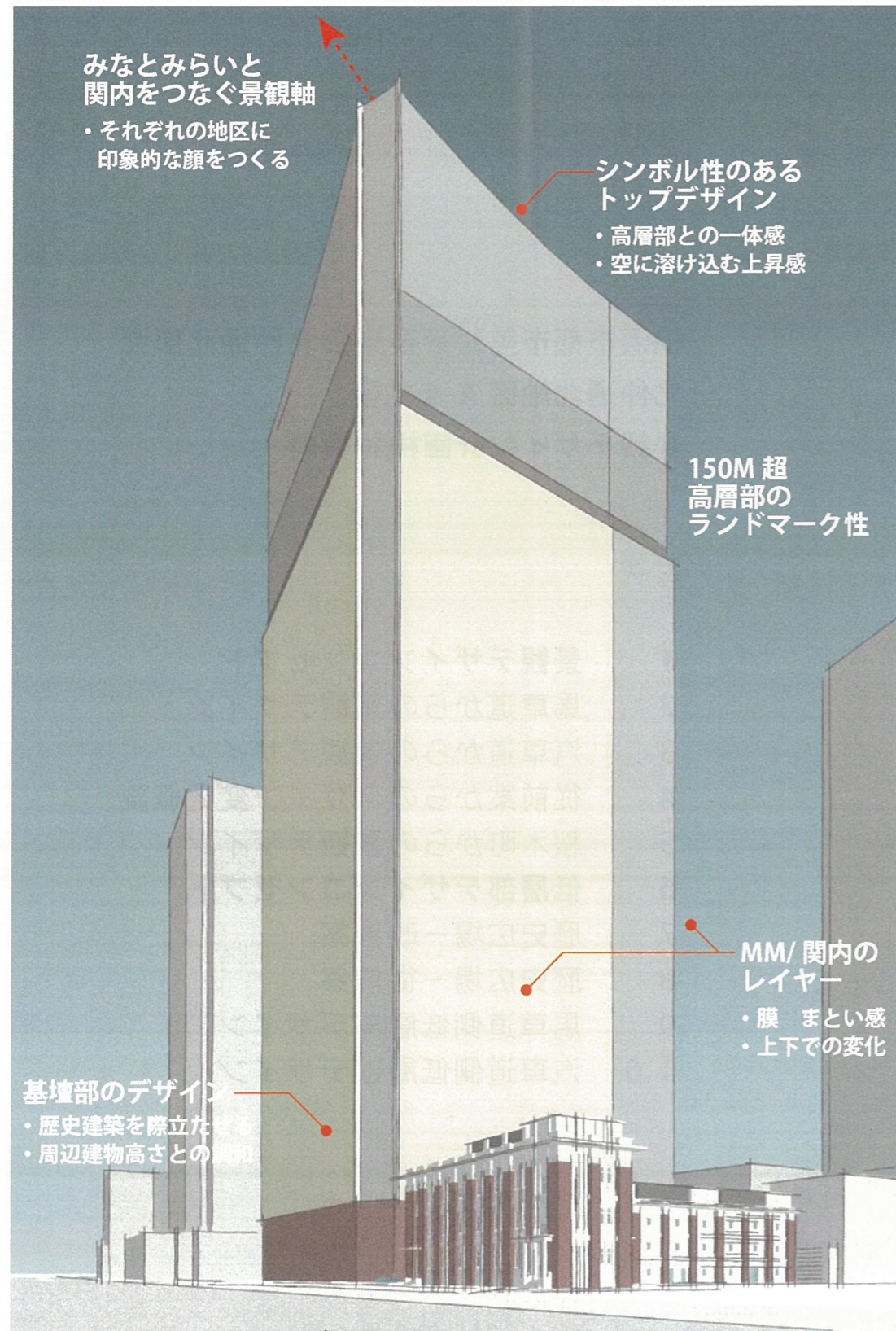
横浜市都市美対策審議会北仲通北部会
北仲通北地区 A-4 地区
景観デザイン計画検討資料

目次

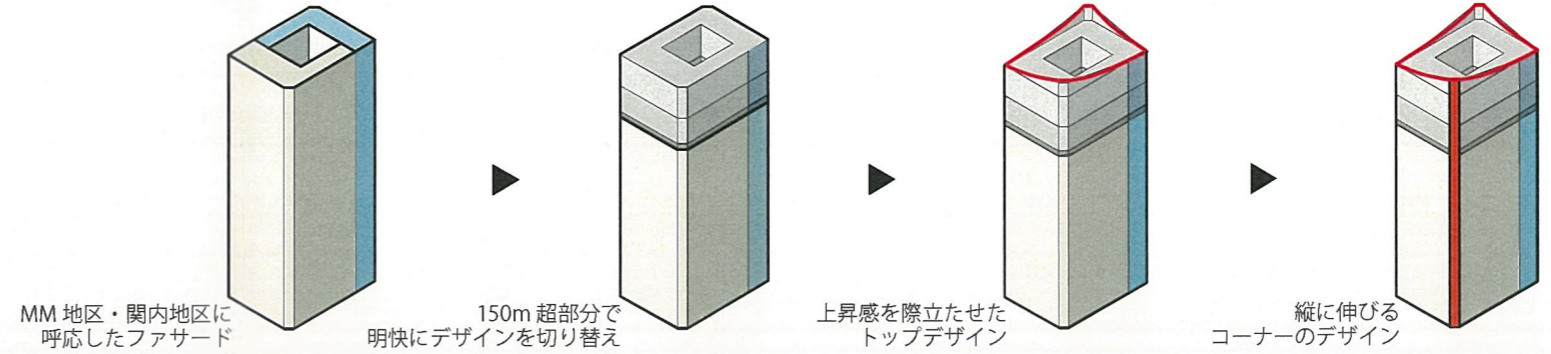
- 1 景観デザインコンセプト
- 2 馬車道からの景観デザイン
- 3 汽船道からの景観デザイン
- 4 従前案からのデザイン変更概要
- 5 桜木町からの景観デザイン
- 6 低層部デザインコンセプト
- 7 歴史広場－改善案
- 8 歴史広場－従前案
- 9 馬車道側低層部デザイン
- 10 汽船道側低層部デザイン

2015年8月6日

三井不動産レジデンシャル株式会社
丸紅株式会社
森ビル株式会社



1. 景観への調和とシンボルの形成



2. MM 地区・関内地区に呼応したファサード

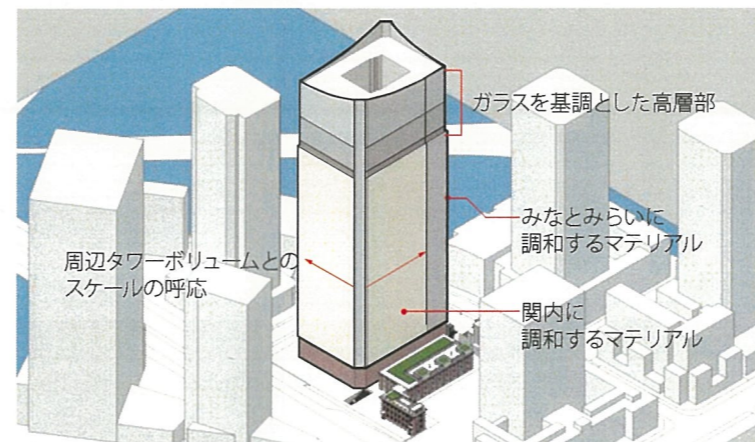
現代的なみなとみらいと、トラディショナルな関内地区をつなぐ方向に対して景観軸を設定し、それぞれに呼応するファサードデザインで各立面を構成します。



配置図

4. 群としてまとまりのある都市景観

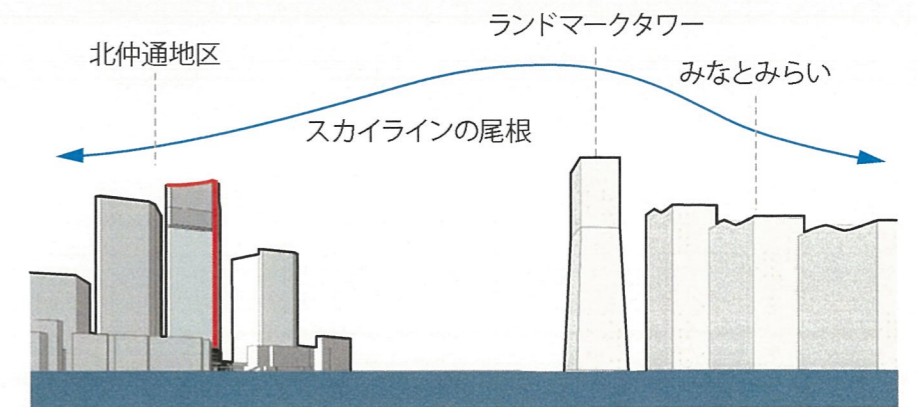
中層部の各立面は、みなとみらい/関内それぞれの景観にふさわしい材料・色調で構成し、高層部はガラスを基調とした空に溶け込むデザインとします。周辺建物高さ(150m)を超えるパブリックフロアを起点としてデザインを切り替えることで、群としての調和を図ります。



関内側からの俯瞰

3. なだらかなスカイラインをつくるトップデザイン

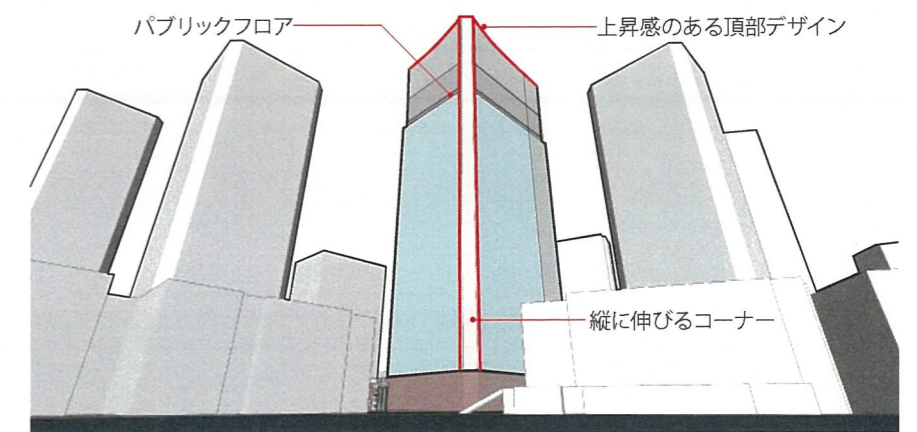
傾斜した頂部を持つ200mタワーのシルエットは、ランドマークタワーを頂点としてなだらかに傾斜する都市のスカイラインをつくりだします。



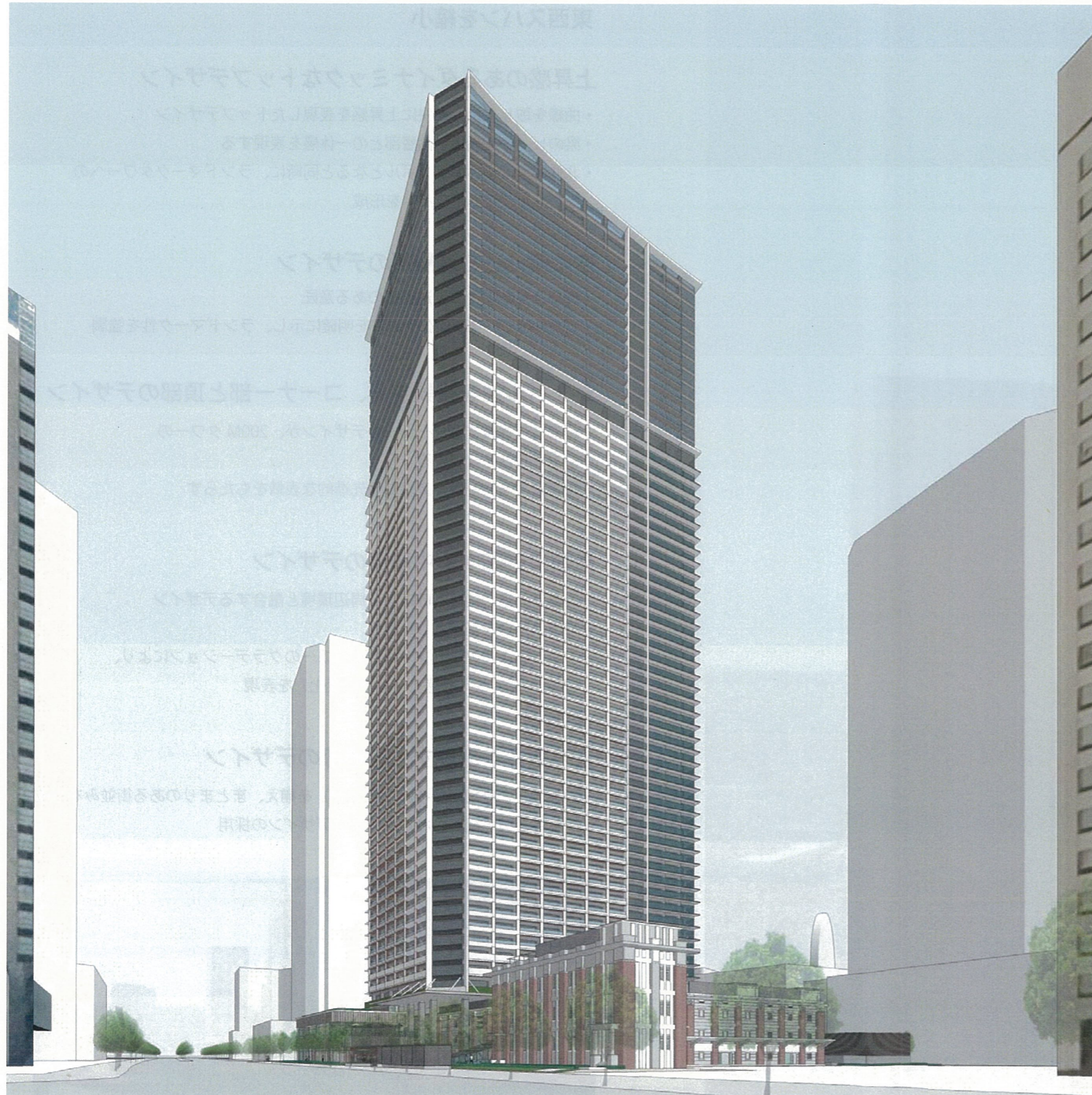
ベイブリッジ方面からのビュー

5. 北仲通地区のシンボルとなる形態

縦方向に伸びるコーナーと、みなとみらい側・関内側の双方に向かって上昇する頂部のデザインは、北仲通地区で最も高いタワーとして、地区全体を象徴づけます。



汽車道からの見上げ



東西スパンを縮小

- ・歴史広場にタワー柱脚を極力落とさない

上昇感のあるダイナミックなトップデザイン

- ・曲線を取り入れ、軽快に上昇感を表現したトップデザイン
- ・梁のピッチを揃え、高層部との一体感を表現する
- ・北仲通地区全体のシンボルとなると同時に、ランドマークタワーへのなだらかなスカイラインを形成

空に溶け込む高層部のデザイン

- ・ガラスを基調とした透明感のある意匠
- ・150M 超のパブリックフロアを明確に示し、ランドマーク性を強調

シンボル性を強調する、コーナー部と頂部のデザイン

- ・頂部まで連続するコーナーのデザインが、200M タワーのシンボル性を表現する
- ・縦線による分割が、スリムで先進的な表情をもたらす

景観に調和する中層部のデザイン

- ・関内地区の景観要素を取り入れ、周辺環境と融合する
インナーバルコニーによるファサードデザイン
- ・帝蚕倉庫で培われた「生糸」の記憶をファサードに織り込んだ
秩序あるグリッドデザイン
- ・視線により変化が生まれる、軒先に織り込まれたブリックグラデーション
- ・ステッチ状に縦方向を強調するブリックカラー



東西スパンを縮小

上昇感のあるダイナミックなトップデザイン

- ・ 曲線を取り入れ、軽快に上昇感を表現したトップデザイン
- ・ 梁のピッチを揃え、高層部との一体感を表現する
- ・ 北仲通地区全体のシンボルとなると同時に、ランドマークタワーへのなだらかなスカイラインを形成

空に溶け込む高層部のデザイン

- ・ ガラスを基調とした透明感のある意匠
- ・ 150m 超のパブリックフロアを明確に示し、ランドマーク性を強調

シンボル性を強調する、コーナー部と頂部のデザイン

- ・ 頂部まで連続するコーナーのデザインが、200M タワーのシンボル性を表現する
- ・ 縦線による分割が、スリムで先進的な表情をもたらす

景観に調和する中層部のデザイン

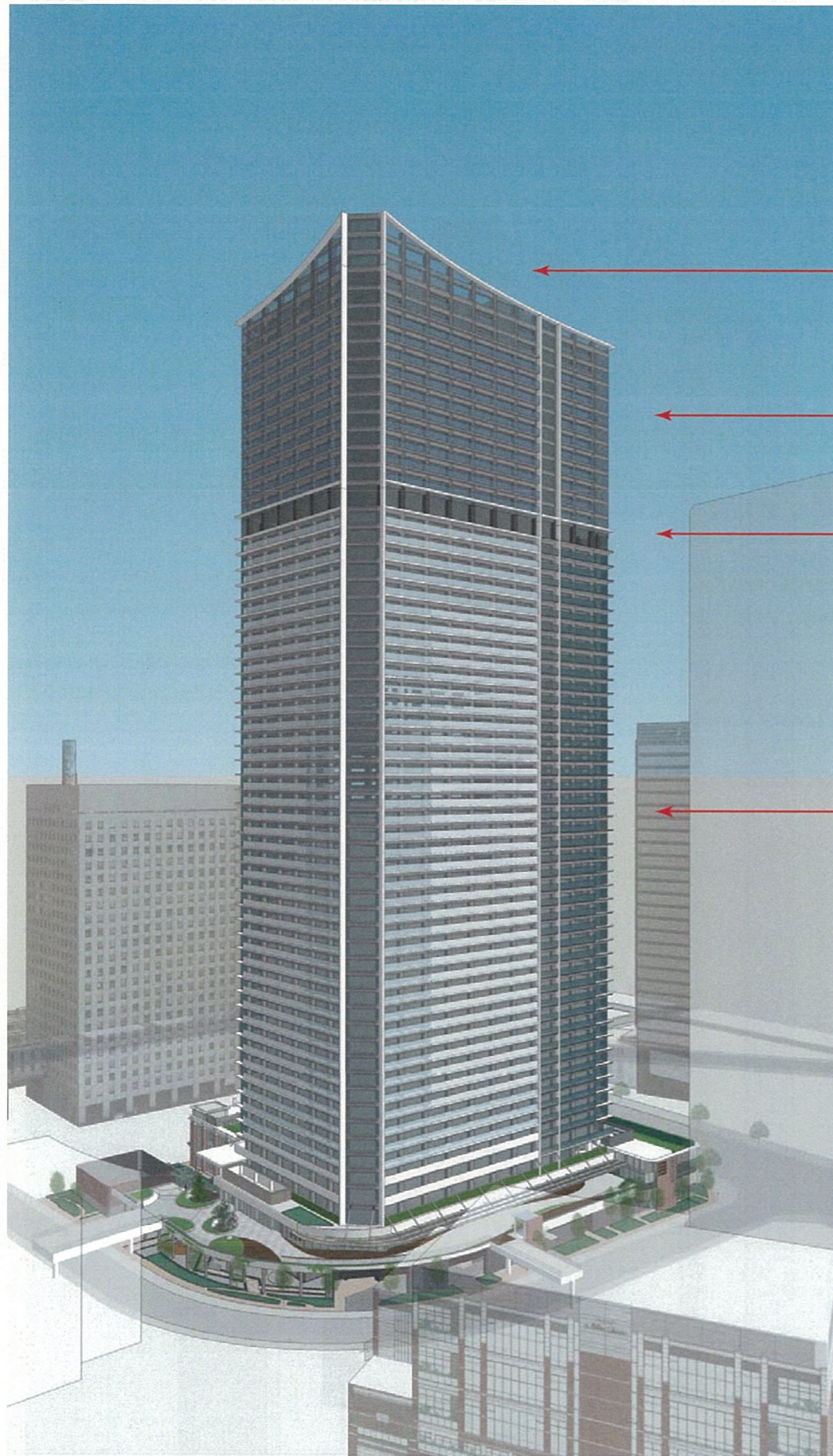
- ・ みなとみらい地区と呼応し、周辺環境と融合するデザイン
- ・ ガラスや白を基調とした意匠
- ・ フィンによるアクセントやバルコニーのグラデーションにより、「まとい感」や「膜感」、「上下の変化」を表現

まちなみを形成する基壇部のデザイン

- ・ 周辺建物と基壇部ライン（約 21M）を揃え、まとまりのある街並みを形成
- ・ デッキ部分と統一されたボーダーデザインの採用



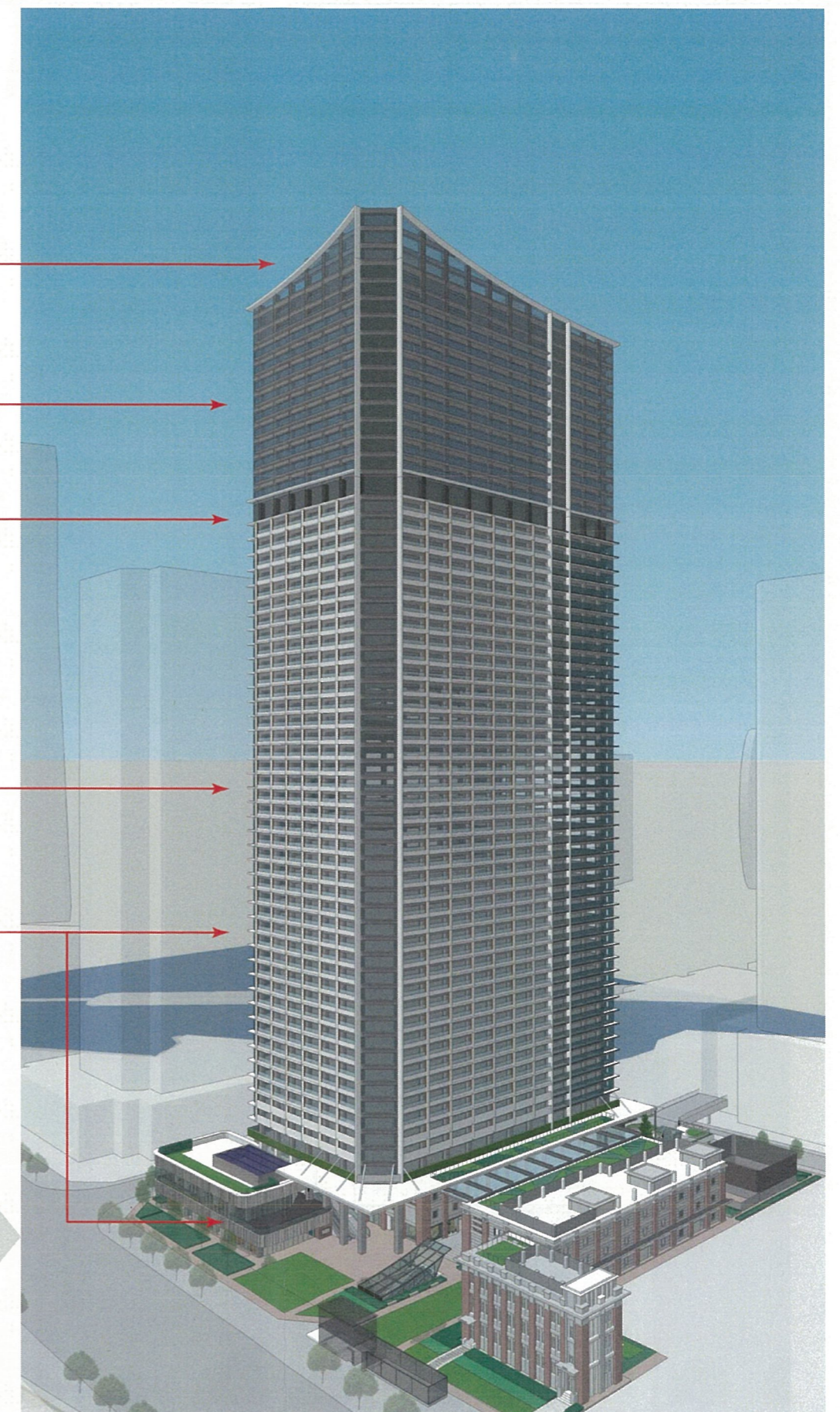
従前案からのデザイン変更概要



自動車側



従前案



馬車道側

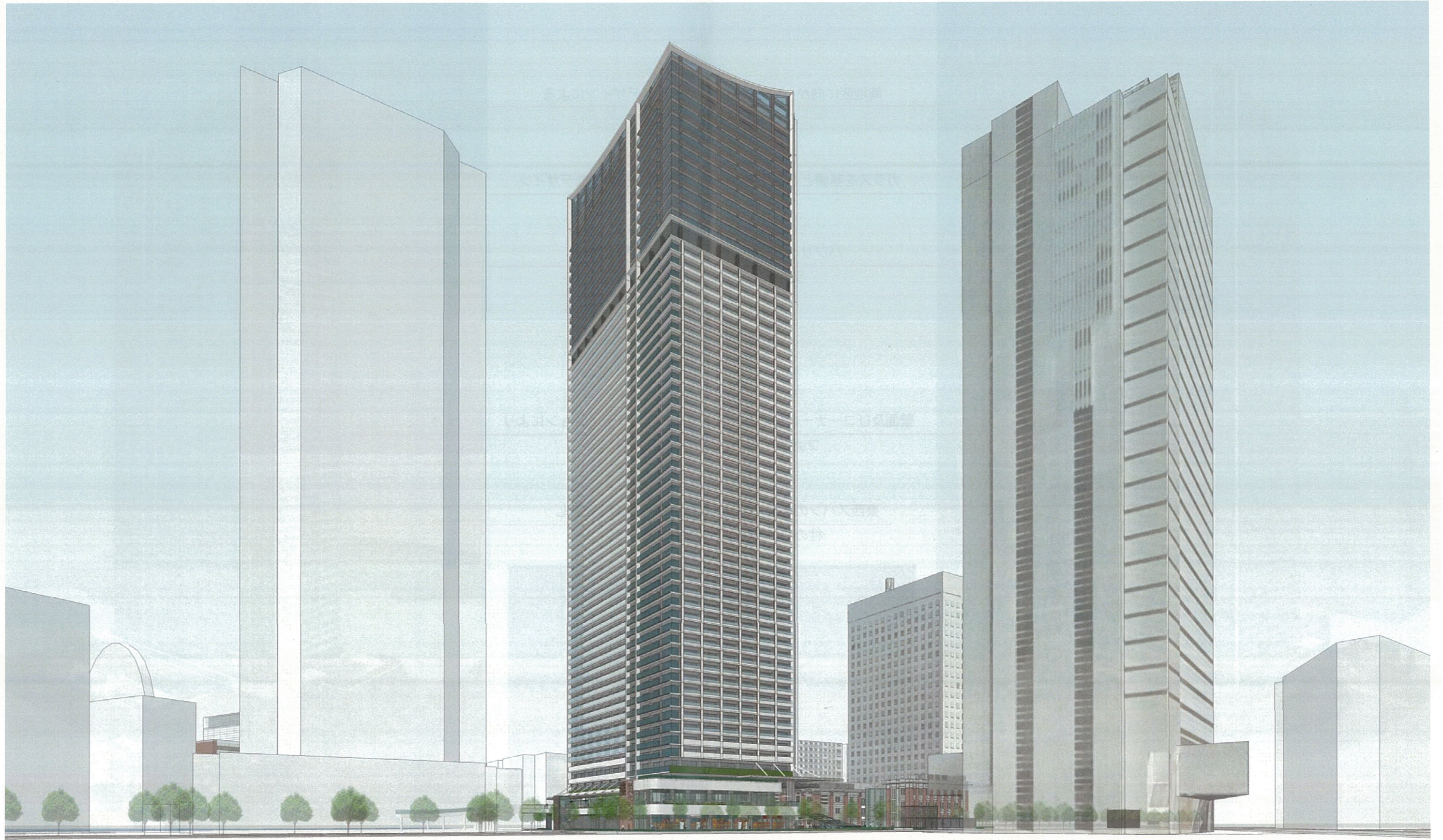
両地区に向かって上昇感を持つトップデザインによる
空につながるスカイライン

ガラスを基調とし空に溶け込む、高層部の一体的なデザイン

パブリックフロアを水平フィンで際立たせ
ランドマーク性をより強調する

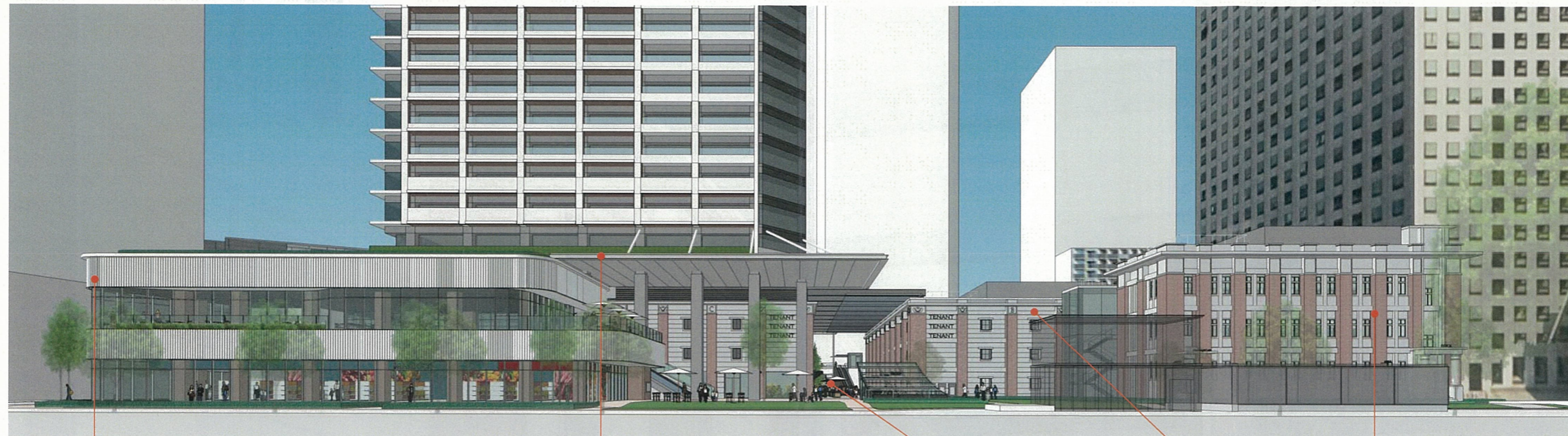
壁面及びコーナーの分節と、バルコニーのグラデーションにより
ファサードに立体感や変化をつくる

東西スパンの縮減により 200mタワーをより強調し
柱のないガレリア空間を創造する



低層部デザインコンセプト

関内地区の歴史性を継承したデザインを基調としつつ、みなとみらい 21 地区の先進性と
呼応したデザイン要素をアクセントとしてとり入れ、調和のとれた街並みを形成



● **New ブリック**

- ・自然素材による壁面の存在感
- ・落ち着いた色彩を基調

● **大庇**

- ・北仲 BRICK 棟のコーニスラインに庇を揃え、一体的なまちなみを形成
- ・層を織り成して構え、人々を迎える大庇

● **歴史広場**

- ・タワーのスパン縮減により、無柱空間を実現
- ・ガラス庇による明るい空間
- ・ペールを複層に織り重ねるイメージ

● **復元棟**

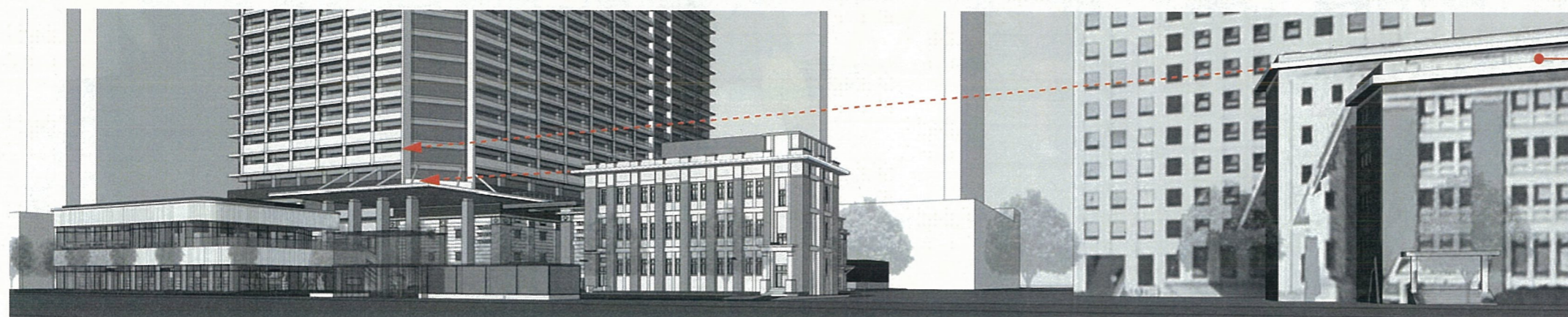
● **北仲 BRICK 棟**



旧帝蚕倉庫倉庫棟



旧帝蚕倉庫事務所棟
<北仲 BRICK>



● **基壇デザイン**

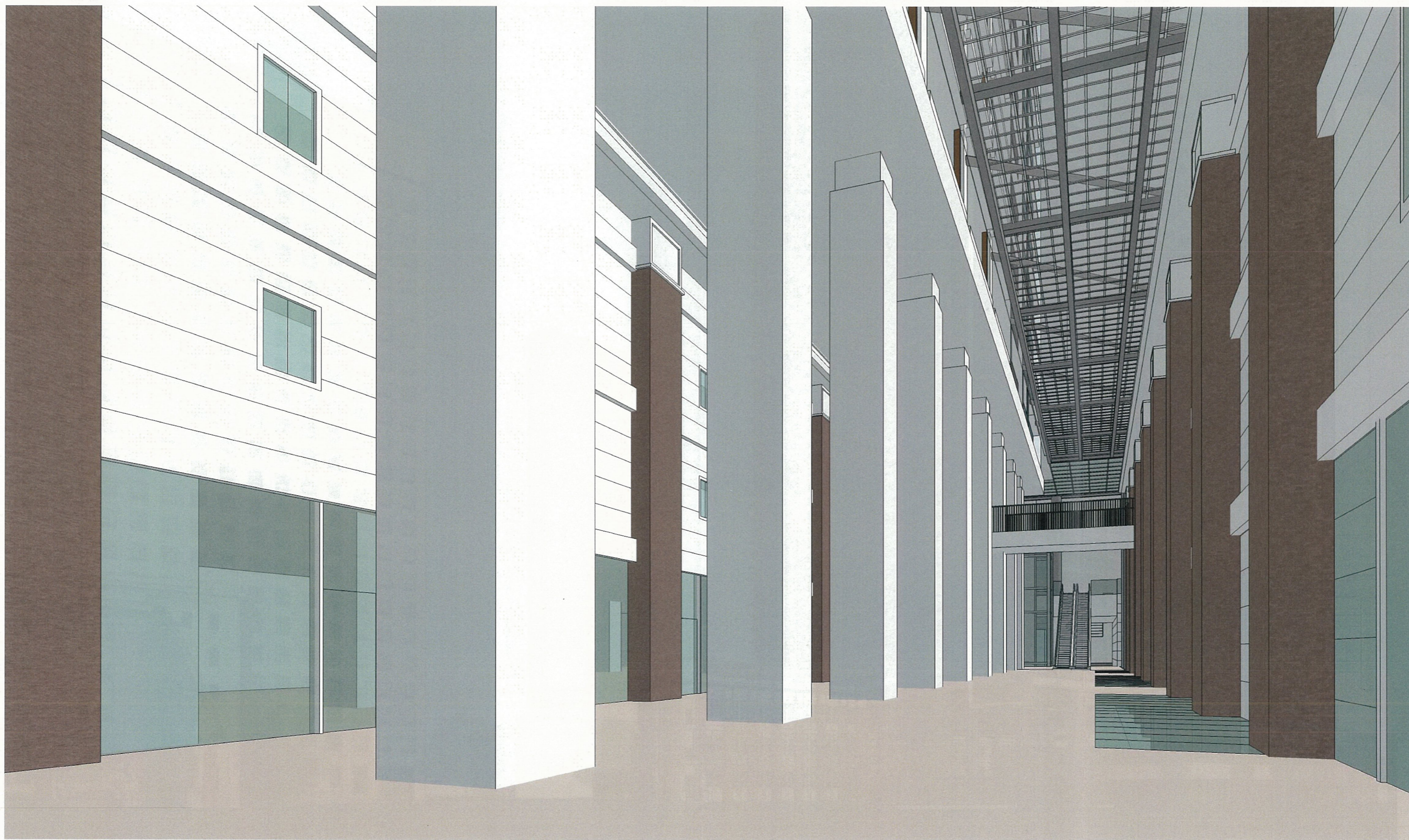
- ・歴史的景観を際立たせながら、高層部と歴史広場のバッファゾーンとして機能する、タワー基壇のファサードデザイン

● **コーニスラインの統一**

- ・合同庁舎のコーニスライン（約 21M）と基壇レベル、北仲 BRICK 棟のコーニスライン（約 15M）と大庇をそれぞれ揃え、一体的なまちなみを形成



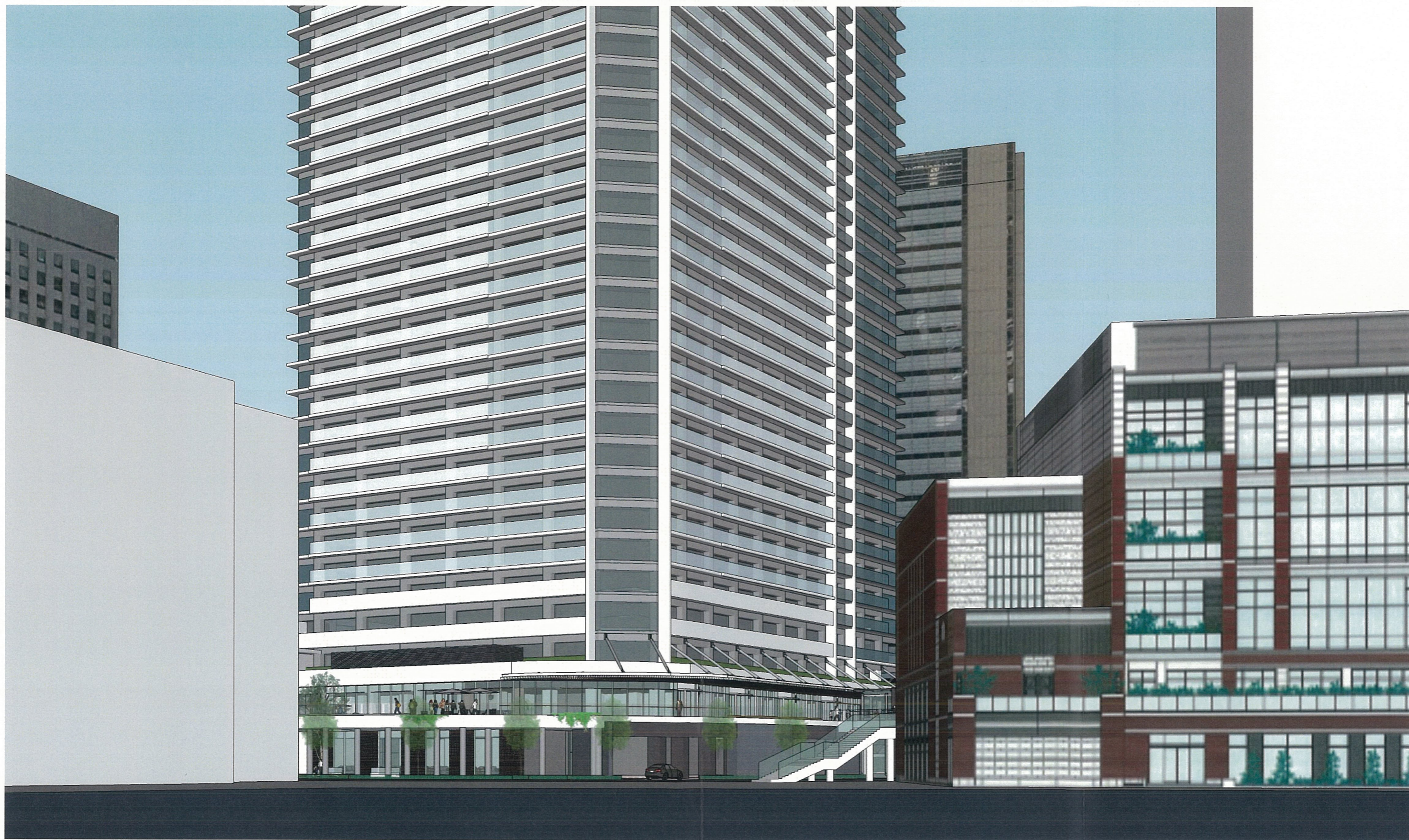
馬車道側から見る



馬車道側から見る



低層部（馬車道側から見る）



低層部（自動車道側から見る）